

インターバンクの声（2017 年 5 月 15 日）

先週末に発表された米国の 4 月小売売上高と消費者物価指数が市場予想を下回ってしまった。前月の数字から悪化したとしてもわずかであれば、ほぼ織り込まれつつある 6 月の追加利上げ見通しには影響はないと考えられていたが、小売売上高の落ち込みは米景気の後退も懸念させる内容だった。

特に増減の影響が大きいコア売上高（自動車・同部品を除いた数字）も市場予想を下回ったのが心配だ。先週は大手百貨店の決算なども低調だったため、市場の一部では小売売上高と消費者物価指数の結果を不安視する向きもあったが、不安が現実となる結果になってしまった。

やや期待外れの販売が続いている自動車販売も、実質的な値下げを実施しているにも関わらず売上げが伸びていないようだ。

指標結果を受けて米長期金利が低下、景気を支えている消費の先行きに不安が広がったため、NY ダウも上値が重かった。

今週も米経済指標の発表内容が気になるが、北朝鮮のミサイル発射実験実施などもあり、市場が再びリスク回避志向に戻るような兆しが見える。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。